



東京都家庭薬工業協同組合会報

かていやく

平成5年8月 通巻53号

津村最高顧問	堀 理事長	塙澤副理事長	津村副理事長	太田理事・相談役	石原理事
宇津理事	相良理事	山崎理事	渡邊理事	宮川理事	鈴木理事
中村理事	高綱理事	原沢理事	喜谷理事	堀内理事	藤井理事
村井監事	建林監事	玉川監事	竹内監事	野原東家協専務理事	唐崎全家協専務理事

かていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、よって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款 第1章（目的）第1条より

目 次 通巻 53号 1993年8月30日

卷頭言	堀 泰助	3
ご挨拶	須藤尚義	4
特別企画 漢方・家庭薬むかしばなし	京極三朗	5
座談会 津村重舎 宮川修市 友田眞二		
家庭薬再活性化への提言	京極三朗	14
庶民とくすり	松井寿一	16
委員会だより		18
薬事、GMP、流通、広告、労務、厚生 総務・財務・事務改善、広報		
会員会社訪問		
啓芳堂製薬株式会社	19	
株式会社恵命堂	20	
三恵製薬株式会社	21	
三共ゾーキ株式会社	22	
三宝製薬株式会社	23	
塩澤副理事長の叙勲を祝して 堀 泰助	24	
トピックス	25	
挨拶 三浦重博 野原和夫 唐崎 實	26	
事務局だより	28	
表紙題字・最高顧問 津村重舎		
表紙 絵・理 事 中村源三		
文中カット・理 事 長 堀 泰助		

卷頭言

新事業年度を迎えて



理事長 堀 泰助

平素当組合の事業運営につきまして、深いご理解とご協力をいただき、お陰をもちまして順調に推移いたしておりますことに対し、厚くお礼を申し上げます。

さて、わが国の経済は長びく景気の低迷によって深刻な状況が続いております。最近の経済指標によりますと、一部に明るい兆しが見えはじめておりますが、急激な円高や政局の混迷によって、景気の回復が遠のいた感じをいたしております。

各企業の3月期決算が発表されていますが、不況の影響を受けて業績の悪化が目立っております。このように、全般的に業績が落ちこんでいる中で、大手製薬メーカーの決算内容をみますと、一部を除き好業績を収めています。

一方、好不況に左右されないとと言われていた大衆薬は、消費者の不況心理が業績に少なからず影響を及ぼしているのが実状であります。とりわけ家庭薬は、スイッチOTCや他産業からの参入によって、市場競争はますます激化の度を加え、厳しい環境におかれています。

この市場競争に打ち克つためには、

第一に、“創造性豊かな医薬品の研究開発こそ、企業の生き残りのカギとなる”と「21世紀の医薬品のあり方に関する懇談会」の中間報告の中でも強調しているように、家庭薬といえども社会のニーズに応えられる独自性のある製品開発と伝統薬の掘り起こしに注力すべきであると考えます。

第二は、自社製品は自らの手で売るという意識のもとで、自販力を強化することあります。

第三は、伝統薬を科学する、つまり、最新の医薬学の知識に基き、家庭薬の安全性と有

効性を、薬理学的あるいは臨床学的に解明しておくことが必要であると考えております。

小売店、消費者に対して、これらの科学的裏づけされた情報を提供することによって、家庭薬への信頼性を増し、ひいては売上げの伸長にもつながるものと信じております。

薬業界は、流通の近代化や医療用漢方製剤の再評価、国際化の進展に伴うGMPの見直し、さらには薬事法の一部改正、製造物責任問題等、未曾有の問題を抱えております。目下、大衆薬業界にとって最も重要な課題は、流通改善の問題であろうかと思います。

医療用医薬品においては、仕切価制やりべートの支払基準の明確化、事後値引補償の撤廃など流通の透明化、近代化に向けた改善が行われ、薬価の安定化が定着しつつあります。

一般用医薬品においても、流通の透明化、近代化は避けて通れない問題であり、前向きに取り組む必要があります。現在、厚生省が一般用医薬品の流通実態調査を実施しておりますが、いずれ調査結果に基いて、何らかの示唆があるものと考えられます。

大衆薬業界では販売対策委員会あるいは流通適正化委員会を設けて、流通改善に関する問題と真摯に取り組んでおり、またメーカー、卸等との協議を重ねていますが、独禁法を遵守し、これまでの不透明な商習慣を改め、公平にして適正な流通制度が確立されるよう念願しております。

この厳しい変革の時代を乗り切るために、当局のご指導と組合員各位のご協力をいただきながら、家庭薬業界の健全な発展のために事業を進めてまいりたいと存じますので、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

(救心製薬株式会社 会長)

ご挨拶

会報に寄せて

東京都衛生局薬務部長 須藤 尚義



東京都家庭薬工業協同組合会員の皆様におかれましては、日頃から薬務行政に何かとご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

バブルの崩壊により、平成2年に始まった長期不況も、近頃、漸く本格的な底入れ論議が交わされるようになって参りました。比較的不況に強いと言われている皆様の市場においても、今回のケースは様々な影響があったことと拝察いたしております。私自身も皆様同様に、一日も早い景気回復を願っている者でございます。

さて、現今、産業界のみならず、官界や学会まで幅広く、いわゆるリストラが大きな潮流となっております。その原因は、戦後五十年続いてきた日本独自のシステムが、世界との融合を図って行くうえで、むしろ桎梏となってきている。より適合的なシステムを早期に作り上げないかぎり、日本の繁栄はありえないという認識から発しているものと受け止めております。

我が薬務行政もまさに同様でありまして、いろいろな改革案が矢継ぎ早に打ち出されてきております。今回法改正を行った医薬品審査の迅速化の試みや、今後予定されている医薬品の許認可権限の委譲なども、マクロで見れば行政のリストラの一環であります。

都の薬務行政におきましても、本年4月から薬事衛生事務所の組織を変更いたしました。これまで、監視指導担当として業務を横断的に担当していたものを、医薬品の流通指導、品質指導、薬物対策と三つに分け、それぞれが専任の業務を担当するようにと手を加えております。これによって、担当業務に対する専門的な関与を可能とし、加えて薬務行政の一層の効率化を図ることを目的としています。

皆様の業界におかれましても、時代の動向と共に、不断のリストラを心がけられておられることと存じます。来る二十一世紀には、行政も業界もより時代に適合した姿で、凜としてあり続けたいものだと念じております。

どうか今後とも、より一層のご精進により、国民のセルフメディケーションの確保という、貴会の使命のために奮起されるよう期待いたします。

最後に、貴会並びに会員諸氏のご健勝とご発展を心からお祈りして、筆を擱かせていただきます。

特別企画・座談会

漢方・家庭薬むかしばなし(戦中・戦後篇)

東京都家庭薬工業協同組合最高顧問 津村重舎
東京都家庭薬工業協同組合理事 宮川修市
東京都家庭薬工業協同組合広報委員長 友田眞二

企業整備令と家庭薬……………

昭和18年に施行

友田 戦争末期に家庭薬メーカーが各県ごとに統廃合され、東京の場合もいくつかにまとめられていいろいろな会社ができましたが、本日はその時代のお話しをしていただきたいと思います。

津村 戦争のいつごろでしたかね。

友田 そうですね、17、8年。いわゆる企業整備令で。津村さんの場合は津村さん独自で。

津村 宝丹さんと一緒にました。それと胃散をやっていた玉置さん。玉置の分家の方ですね。それが一緒になるうと言われたんですよ。

宮川 分家というと文治郎さん…。

津村 ええ玉文さん。あそこは一緒にました。それで終戦が来ました。

友田 統合された会社で東興製薬という会社がありました。あの時は太田胃散の先代社長の太田信義さんが社長となり、それから大木五臓圓、喜谷實母散、こういう方が一緒にになったと記憶しています。それが戦後に企業整備令が解除されて、皆さんがそれぞれ独立されました。その辺のお話を聞きたいのですが…。

津村 だいぶ記憶が薄れてきましたが、お話をしながら思い出してまいりましょう。

宮川 私は薬業界に入ってちょうど50年になりますが、戦前、東京甲子社に入る前に藤本にお世話になったんです。

津村 そうですか。大阪の…。

宮川 東京の。あの当時は東京支店でした。

津村 医療用具の。

宮川 今のピップエレキバンですね。その時に田中園製薬所があり、ご存じの田中社長にお世話になって、会社を作るから是非ということで。東京甲子社は実は中西武商店の下請けをやっていましたので、丹平さんや玉置さんとは取引がなく、中西さんにしか顔を出さなかつたものですから、あまり業界のことは詳しく知らないんです。

この東京甲子社は企業整備令が出ました時、東京の中西さんの下請けをやっているメーカーが4社集まりまして会社を作ったわけです。それから、私は召集で行っちゃって。帰って来たときは、まだ東京甲子社の社長は、薬剤師会で有名だった竹中稻美さんでした。

田中前社長は専務でした。それにハコネ薬局の小川さん、銀座の井上薬局さんなどがみんな一緒にました。それで戦後、みんな別れましてね。東京甲子社はそのまま名前を変えないで、田中さんが社長となり、私はそれ以来お世話になっています。

友田 先日『家庭薬全書』という家庭薬統制

組合が編纂した本を調べましたが、トクホンさんは埼玉県内のメーカーさんと一緒に埼玉県製薬株式会社を作り統合されています。その他、原沢製薬さんが株式会社宇津権右衛門薬房（現在の宇津救命丸）に、以前は大変よく売れた黒龍さんが株式会社藤井得三郎商店

（現在の龍角散）に。また、昭和25年当時、組合の副理事長としてサントニンの割当配給などに活躍された、むさし製薬の武藏徳治郎さんは、石原薬品の先代社長の石原量さん達と弘和製薬株式会社を作り統合されました。

本舗家庭薬とは.....

店舗で売られる壳薬

友田 ところで、昔からの家庭薬を本舗家庭薬と言いますけど、この本舗という意味が今の人たちにはよく分からないらしいんですが。

津村 本舗と言いますのは、例えば、中将湯本舗と言いましたが、同じような名前だと同じような製品があるので、どこが本家か分からんと。そこで私の所が本家ですという意味で本舗と言い出したんですね。

ですから、婦人薬でしたら實母散は随分ありましたから自分の所が本舗だとして、何々實母散本舗と言ったわけです。もう私の時には本舗という名前を方々で付けていましたね。本店というような意味で皆さん使っておられましたね。

友田 先程の企業整備の際には、配置壳薬に対して、本舗壳薬という言葉が使われていますね。この時の本舗は店舗という意味で、店舗で売られる壳薬を本舗壳薬と言ったようですが…。



津村 そうでございますか。お店売りという意味ですね。それの方が正しゅうございましょう。

宮川 企業整備の時は、本舗壳薬が甲と乙の二つに分けられていましたね。甲種は全国的に広く販売されているもの、乙種はその他のものと。ところで、この壳薬という名前が無くなったのは何時ごろでしたでしょうか。

④昭和18年に薬事法ができた時に、明治以来、法制上薬品と壳薬に区別されていたものが、壳薬法の廃止により医薬品として一本化されたために壳薬という名前が消えた。

しかし、壳薬工業組合をはじめ、長年にわたって壳薬という名前を用いてきた業界にとっては重大問題で、壳薬に代わる新しい名前の要望が出され、厚生省も検討の上、通称名として家庭薬という名前が使用されるようになった。

懇和会

津村 ちょうどこの頃かな、家庭薬懇和会というのがあって、そこには10人位のメンバーがおられたと思います。段々と記憶が薄れていきましたが、堀内さん、守田の宝丹さん、大木さん、私の所、敬天堂、それから喜谷さんもいました。安川コロダイの安川さんもいましたね。

宮川 清心丹の高木さんは入っていましたか。

津村 ああ高木さんね、おられました。あと藤井さんですね。それである時、有名な目



薬の精錠水の岸田さん、吟香さんじゃなく、その次の方じゃないかな、タンジさんって言ってましたかね。その方が、私の親父が死んでから出るようになつた時「津村君、この頃の人はいいよ、スポーツはあるし、映画はあるし、遊ぶのに事欠かんな、我々の時代は仕事が終われば、どこかへ寄つてワアワア騒いで、女の噂ぐらいしてゐるんだよ。その他には酒飲んで、女と遊ぶくらいしかないんだよ。君達はいいよ」って言ってね、それから余りにも具体的な話を言ったんで、こんな若い人の前で女の話しなんか言いなさんなって、みんなにたしなめられて「だって本当なんだからしょうがねえじゃないか」って…。

宮川 それはどういう会なんですか。

津村 それはうちの親父が提案して作ったようございますね。家庭薬は本当に仲が良かつた。私の親父の時代は卸とメーカーとは一緒の組合ですからね。そのもう一つ前は化粧品と一緒に、資生堂さんなんかとは随分と親しく、花王さんやなんかもですね。それが大正の初め頃には別かれて、薬屋だけになり、その時分はまだ卸も一緒にでした。それからメーカーだけに独立したわけなんです。

北海道へ原料を植えに

津村 やはり、一番問題なのは統制でございまして、いわゆる統合。ちょうど親父が死ん

でその翌年だったと思います。僕はまだ西も東も分からないので、どうしたらいいのかと思っていたら、藤井さんが音頭をとられて、配給の方も藤井さんがしておられました。私などは、その後についてワアワアやっていましたけど…。

その時に実績を集めましたら、家庭薬はだいたい新薬の半分くらいの売上でしたが、新薬はいろいろ数も多いので、かなり水増しの数字もあり、本当は半分よりもっと家庭薬の方が上なんだって、皆さん言っておられましたね。そうして統合されて、配給制度になり、私は親父が死んですぐですから、どうしていいか分からなかったんですけど、配給の物を貢って作ると売れちゃいますから、商売じゃないんですね、非常に楽でしたよ。

そうかって利益が沢山あるわけじゃないから、ノホホンとしていたわけじゃないんですけど、原料さえあれば売れるんです。そこで、北海道に原料を植えに行って、お百姓さんと契約栽培をやつたらですね、大阪の生薬の統制会社の誰でしたか、背の高い人が、津村君が勝手に栽培して横流しているって。そういうデマを飛ばして。要するに契約栽培しちゃ困るという意味なんですね。お百姓さんが警察に呼ばれて、そのために作っているのかって言われて。北海道で三人くらい呼ばれましたよ。

宮川 どんな生薬を栽培していたんですか。



津村重倉最高顧問

津村 それは北海道ですから、当帰、川芎ですね。統制のあった最初はいろいろな問題が起きましたね。しかし、終戦になりましてから、いよいよこれで自由になったと。私は終戦の時は師団司令部の上等兵で入っていましたが、すぐ解除になって帰ってきて、さあやろうと思うんですけど、原料は沢山あるものの人手がないんです。それに他の資材がないんですね。集めるのに苦労しました。

お得意さんもどこに行かれたのか、場所も分からぬくらいですから、売り先も分からぬ。取りに来てくださる方はいるんですけど…。

20年の暮れでしたけど平和産業ですから銀行が金貸してくれないんですね。それで仕様がないから自分の乗用車を売ったりして給料を払ったり、いろいろなことをしましたけど、しかし、作れば売れた時代ですから、まあ、のんびりやりました。

その間に救心の堀さんやなんかとお付き合いが深くなり、皆さん方と一緒になったりして、当時の家庭薬は本当に一族みたいな感じで、仲良く過ごさせていただきました。

同じ胃散でも太田さんと他の胃散では全然違いますので、お得意さんが入り交じらないんですね。価格競争じゃなくメーカーの競争ですから、非常に古い、信用のある所は、誰が出てきても心配ないというように。

喜谷實母散の喜谷さんとも随分お親しくお付き合いいただきましたね。中将湯とかなり処方も似てますけども、どっちかって言うと實母散は虚証に効くもので、うちのは虚証と実証を合わせた薬で、どっちでも売れるんですね。それは京都の佐伯先生という婦人科の先生が、創業当時に、うちの父が奈良県出身でその先生も奈良県なものですから、お尋ねしたらば、よしこの処方は俺が丁度いいようにしてやるからと、合方されたんですね。このように、それぞれ消費されるお得意さんが違っていました。

私の父は以前、第一製薬の社長をし、私も監査役をやっていましたから、皆さんをよく存じあげているんですが、どうも新薬の方は組合と言ったって家庭薬のようじゃないんですよ。皆、喧嘩腰ですからね。皆んなの前で口をきく時は罵ることないけど、裏へ廻るとお互い足の引っ張り合いだから、大変なんですね。価格協定一つにしても、それは全然守られっこないんですよ。そこのくと家庭薬はいいですね、「皆さん和やかに仲良くやっておられて」と言われたものです。それを一番印象的に覚えています。

戦前のチェーン

友田 戦前はチェーンというと、ホシ胃腸薬の星さんくらいしかなかったですか。

津村 そうですね。三共の子会社で泰昌さんもヨウモトニックをチェーンでやろうとしておられたんですが、それもうまくは進みませんでしたね。

宮川 チェーンと言えば大正さんが組合員でしたでしょう。

津村 大正さんは、当時は日本薬品産業、通称、薬産と言ってましたが、その上原さんが組合に出席されておられました。それで何年かして急に大きくなられたので、あれよあれよと言ってたんですけど、最初は来ておられ

ました。渡辺理事長さんなんかの時も…。

宮川 三宝さんもチェーンのような…。

津村 はい、エスエスの白井さんもそうです。そのチェーンの中では大正さんがずば抜けて大きくなられましたね。大分あとになりますが、いわゆる公取の問題などいろいろなことがあって、大正さんは一番最初に再販をやられたんですね。

私なんか「小売屋さんと直接手をにぎったら小売屋さんにやられちゃうから、やっぱり問屋さん通した方がいいかな、再販は駄目なんだ」と思ってましたですね。

処方の整理

友田 ところで企業整備の時には企業の整理統合の他、処方の整理も盛んに行われたようですが。

宮川 そうでしたね。同じような処方は一種類に。確かに、基準処方と言っていましたね。
㊭この他に特殊の処方として残す必要があると認められたものは存置処方といって単独で残った。この選定には家庭薬統制組合があり、厚生省の承認を受けて実施された。

宮川修市理事



これにはいろいろ条件があり、その中に確実な由緒ある家伝の処方は残すように考慮された。

結局、約40万処方といわれた処方は、最終的に存置処方が1260品目、基準処方が3415品目、その他、休止処方が949品目の合計約5600品目に整理された。

友田 これが終戦後、各種統制が解除になり、有名家庭薬も続々と復活してきましたが、残念ながら今では消えてしまったものもありますね。

戦後の有名家庭薬.....

消えた家庭薬

友田 婦人薬には有名な家庭薬がいろいろありましたね。たとえば恵之玉とかですね。

津村 恵之玉、あれは坐薬だったんですかね。
宮川 膀胱ですね、井の頭線の方にあった貴命製薬が製造元ですね。

友田 帯下だとか、ああいうのに使う薬ですね。日東製薬、今の三恵製薬さんにもワセトン球というのがありましたね。

それから、以前は東京不二製薬さんの坂本さんがよく組合に出てきましたが、あそこの

商品は何でしたか。

津村 不二さんは婦人薬でしたね。

宮川 美宝散です。

友田 婦人薬もあの当時は、家庭薬が多ございましたね。

津村 はい、千葉さんと喜谷さんとうちの三大婦人薬の本舗をはじめね。地方にも随分ありましたね。私はいつもいますが、今、消えているものもその処方をどこかに取っておいて、こういうのがあったという記録を作つておくべきではないかと…。

宮川 そうですね。ヘルプなんかも…。

津村 ヘルプはうちでまだやっております。



友田眞二広報委員長

宝丹はちょっと処方を変えちゃったんですね。確かに、辰砂が入ってましたのでね。

宮川 あれは水銀製剤で…。

津村 赤色硫化汞という水銀ですから駄目になりましたね。

宮川 エスエスさんの妙効丹も辰砂を含んだ水銀製剤でしたね。

津村 そうですね。千金丹もありましたし、うちでもやっておりました。板で上に金が塗ってあって節目が入ってポンと四角いやつね。友田 過去の有名な家庭薬が、なぜ消えたのか調べるのも興味深いですね。

津村 新しい時代に適応した宣伝方法の研究が足りなかったのも一因と思います。難しいんですけどねえ。

友田 坂本さんなんかは、弟さんが経営学者で、一時すごかったですよね。経営コンサルタントで、不二製薬さんが傾いた時、自分で建て直すって社長になられてね。でもやっぱり駄目だったでしょう。理論と実際は違うということで、ご苦労なさったようですね。

津村 元気のいい方でね、終戦後、よくお会いしました。

宮川 それから橋本ケミカルの橋本さん。

友田 競馬の馬まで持ててね。

津村 お父さんが競馬が好きでね。

宮川 商品はいわゆる胎毒下しのハルナーでしたね。顔半分を黒くした独特の広告で。

津村 毒下しといえば、山崎帝国堂さんの毒掃丸もそうですね。

友田 それから動脈硬化の薬のヤギクラミンなんていっては、あれも家庭薬でしたね。

宮川 昭光製薬ですね。

友田 あとカオールなんて言うのは、家庭薬に入っていたからでしょうか。仁丹のような製品でしたね。

津村 カオールも入っておりました。シッカロールもありましたね。

友田 和光堂さんですね。あせ知らずというと団扇印で有名だった徳田のあせ知らずがありましたね。布袋に入ってそのままパタパタと使えるやつで。和光堂さんというと、あと頭痛にテーリンですか。

外用薬etc

友田 古いといえば、昔、非常に売れた妙布は、お風呂前に一旦はがしたのを火鉢で灸り、お風呂からあがった時にまた貼る。粘着力があるうちは、何度も使えた貼り薬と記憶していますが、あれはどうして無くなったんですかね。

津村 松脂の黒い色が嫌なので、それで駄目になったんですね。

宮川 渡辺輝綱薬房さんですね。やはり組合員さんでしたね。

津村 白いサロンパスやなんかに変わられちやったんですね。按摩膏ですからね。あの黒い色が体に付くんです。

友田 お相撲さんが貼っていた相撲膏ですか。

宮川 それを妙布さんが代表して儲けた時代があったんですね。

友田 トクホンさんもシカマンという古いものをお持ちなんですね。黒い所謂、万金膏ですね。

津村 あとは何がありましたか。

宮川 東京の方では、回効散、あるいは實効散とか。



津村 回効散はうちの親戚で。うちに最後までおられました。

友田 實効散は堀内さんが。以前は師岡天然堂ですね。それから師岡さんには一、二、三と書いてヒフミという名前の外用薬がありましたね。品物は實効散が堀内さんに変わった時にはもうなくなっていました。

宮川 昔、ヒフミは随分売りましたですね。

津村 それは随分売りました。有名でしたから…。

友田 あれは軟膏ですね。一品が長く、50年100年と続くのは大変なんですね。

津村 本当にこうやって振り返ってみますとお元気だった方で、お名前を思い出せないような方が随分あるようですね。

宮川 表紙の写真を拝見すると、ほとんど皆さん二世の方ですからね。最初の新川の当時、堀さん、太田さんはお見えだったのですが、その前はお父さんたちが出席されていましたね。

津村 そうですね、そういう意味で変遷というのは、なかなかそれを乗り切るのは大変だということが分かりますね。

胃腸薬のトップブランド

宮川 友田さんのトモサンも有名な胃腸薬でしたね。何年ごろ発売されたのですか。

友田 昭和7年からです。

宮川 結構、売れたものなんでしょう。

友田 売れました。一時は胃腸薬のトップにたちました。

宮川 でしょうね。若いころよく覚えていました。

友田 あれは黄柏のエキスと非常に相性のいい弱アルカリ性天然ケイ酸アルミを主成分としたもので、その原料の天然ケイ酸アルミの山を全部掘り尽くしちゃったんですよ。それで、他の会社のケイ酸アルミを使ったら全然駄目なんですよ。特殊のケイ酸アルミでない

といけないんですよね。

宮川 天然ケイ酸アルミの製品ですと、有名だったノルモザンも見かけなくなりましたね。トモサンは今でもありますか。

友田 動物用トモサンだけ出しています。人体用は止めました。

津村 昔はトモサン信者っていたんですね。その人達を裏切るわけにはいかないというので、山の原料が無くなってしまって人体用は止めたわけですか。惜しいですね。

友田 子供の頃、工場に行きますと、大きな釜で黄柏を一生懸命煮だしていたのを覚えています。

宮川 胃腸薬では双葉さんの胃健錠もよく売りましたね。あれは確かセンブリと重曹の製剤でした。

津村 あれは陸軍処方で軍隊でよく使われたものですよ。

友田 わかもとも売れた製品ですね。

宮川 わかもとさんというと社長は長尾欽弥さんでしたね。あの方なんかも組合へ出てこられたんですか。

津村 長尾さんは出てこられませんでした。あの方は別格でした。

友田 それから昔は肝油製剤もよくつかわれましたね。

津村 今でも河合製薬さんが東京家庭薬ではご健在ですけど。肝油球は少なくなりましたね。

宮川 以前、笹塚あたりに、確か富谷製薬と

いう肝油球のメーカーさんがありましたね。

友田 東京田辺のハリバも有名でしたね。

宮川 オゾもよく売っていましたね。

津村 アジア製薬ですか。アジア製薬の前は都南莊という会社で造っており、組合員でしたね。

友田 アジアさんといえば、オゾの他に妙通やノーソもありました。昔は血を綺麗にするってね。

宮川 あと、むさし製薬、武藏徳治郎さんの所ですね。トッカピンなんて面白い薬をやっていましたね。

戦後の家庭薬組合.....

歴代の理事長

友田 懐かしい古い家庭薬がたくさん出てきましたが、ところで、現在の東京都家庭薬工業協同組合の前には、何かそういう組合的な団体があったんですか。

津村 もちろんありました。確か、終戦後の昭和20年の暮れに東京都家庭薬組合ということができましたね。そして昭和22年の5月に、今の協同組合に組織が変わったと記憶しています。

宮川 その当時の理事長さんはどなたでしたか。

津村 玉置製薬の玉置弘三さんです。戦前の東京壳葉工業組合の時代は先代の藤井得三郎さんでしたね。昭和25年に玉置さんからイチジク製薬社長の湯浅巖さんに変わり、長い間理事長を務めています。

宮川 津村さんが理事長になられましたのは。

津村 私は昭和40年からで、その前は昭和37

年に湯浅さんから三宝製薬社長の渡邊久吉さんに変わり、私になるまで理事長でした。

私の後は昭和61年に太田胃散社長の太田昭さんが、現在の理事長の救心製薬の堀泰助さんは平成2年からですね。

確か協同組合設立当初は、玉置理事長の他、湯浅、渡邊さん、救心製薬の堀正由さん、薬産、今の大正製薬の上原正吉さんも理事でした。それにむさし製薬の武藏徳次郎さんや和光堂の藤原峻さんも入っていましたね。

その後、湯浅さんが理事長になってから理事も増えて、私や浅田飴の先代堀内伊太郎さん、太田胃散…この時は東興製薬でしたね。

この東興の太田信義さん、宮川さんの所の田中敏明さん、大木の大木卓さん、東京不二製薬の坂本藤四郎さん、宇津救命丸、この時は宇津権右衛門薬房ですか、この宇津権右衛門さん、山崎帝国堂の山崎嘉太郎さん、それにエスエスの白井正助さんもおられましたね。

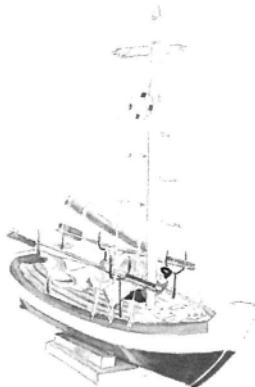
その後、中小企業の組合法ということから上原さんは止むなく脱退されたようです。

組合員の横顔

友田 その頃の組合員さんは。

宮川 湯浅さんの時代ですと、パピロギンの石原さん、ハルナーの橋本さん、ユキワリミンの原沢さん、日絆の歌橋さん、ノボピンの東海貿易の松田さん、千葉實母散の千葉さん妙布の渡邊輝綱さん、ヘルプの大興製薬の津村岩吉さん、中村化成の尾崎さん。





友田 この時は今の中村化成の中村さんの一時代前になるわけですね。

津村 そうです。この時はまだサントニンなどは輸入に頼っているため割当で、組合に委員会を作つて折衝していました。この割当を受けるため、中村化成さん他、何社かのサントニン製剤のメーカーさんが組合に入られたと記憶しています。むさし製薬の武蔵さんが副理事長としてよく折衝していましたね。

宮川 それから神薬の邑田資生堂さん、安川コロゲインの安川晃栄堂さん、たこの吸い出しの町田新之助さん、今の町田さんのお父さんですね。

胃健錠の双葉製薬の五味さん、黒龍の黒龍堂さん、小松痔退膏の小松さん、妙通のアジア製薬の和田増太郎さん。

津村 和田増さんね。

友田 なかなか元気のいい方で、違反広告で役所に呼び出されても、逆に文句を言うくらいの人でしたね。有名な方でした。

宮川 桜上水の駅が朝開くのを表で待っていてね、それで一番電車に乗って名古屋まで集金に行って、その日のうちに帰つて来るんですよ。すごかったんですよ。今なら新幹線もあるから簡単ですが、当時は大変だったでしょうね。

津村 すごい馬力ですね。

宮川 しかし残念ですが、後を継いだご子息さんも体調が悪いとのことで、会社を閉鎖して、製品は富山のチェーンメーカーの明治薬品さんが承継したようです。

その他、白髪染めビーマンの共同製薬の石沢さん、もちろん、キンカンの金冠堂の山崎

栄二さん、ヤギクラミンやロゼット洗顔パスターの昭光製薬の原さん、玉盛シンセンの心泉医薬さん、回効散の森田さん、實効散や一二三の師岡天然堂さん、トクホンの鈴木日本堂の鈴木宗一さん、あとは細かい製品をやってましたが、生盛の丹沢さんなどですね。

友田 生盛さんはオイチニの薬屋さんで有名でしたね。歳末の社会鍋の募金活動ではありませんが、独特の服装で手風琴を鳴らして。最後は普通のチェーン方式で販売していましたが、消えてしまいましたね。

津村 いろいろと懐かしい方が出てきて昔が思い出されますね。

宮川 組合員はどれくらいでしたかね。

津村 そうですね。はっきりとおぼえていませんけど、70社くらいはおられたと思います。

友田 現在の正組合員は54社です。確かに、以前は原料の配給をもらうために組合に入った方もいたでしょうね。

宮川 終戦後もしばらくの間は何でも配給でしたね。重要薬品の原料はもちろんのこと、木材や建築資材の他、ゴム長靴まで、生産必需資材として配給でした。

津村 組合でもサントニンやアルコール、ワセリンの他、医薬品に使われる砂糖までいろいろと骨折ったものですよ。

このような混乱の時代を乗り越えて今日まで来たんですから、これからも益々繁栄するよう、皆さんで助け合つていかれるようにしたいですね。

友田 そうでございますね。本日は長時間にわたり貴重なお話をいただき有り難うございました。

家庭薬再活性化への提言



薬事評論家 京極 三朗

「孫子」は、中国最古の兵書である。

その「孫子」の「謀攻編」に、

「勝を知るに五あり。戦うべきと戦うべからざるとを知る者は勝つ。衆寡の用を識る者は勝つ。上下の欲をおなじうする者は勝つ。虞（事前の周到な準備）を以て不虞を待つ者は勝つ。将の能にして君の御せざる者は勝つ」と書かれていて、これに、有名な、「彼を知りて己を知れば、百戦して殆（あや）うからず」の言葉が続く。

①戦うべきと戦うべからざるとを知る者は勝つ。

消費の沈滞は、百貨店などの売上低下に、大きな影響を与えている。

幸いにして、医薬品とりわけ大衆薬の場合、景気の変動に関係なく、需要のあるものだけに、持つべきものを持ってしまって買うもののなくなった電化製品のように、消費の沈滞の影響をとともに受けることはなかった。

状況は、自分で好転させるものである。戦うべからざる時期は終わりつつあって、今秋ころには戦うべき時期、つまり、積極策に転じるべき時期に、達するのではなかろうか。②衆寡の用を識る者は勝つ

大企業は大企業なりに、小企業は小企業なりに、戦い方がある。

この数年、講演をしていて感じることは、

講演を聞いて下さる方々の年齢層が、急速に若くなっていることである。

薬局・薬店の最前線で、販売に当たっておられる方々が、この数年のうちに、急に若返ったということになる。

しかも、製薬企業の方々は、この年齢層の方々を、店員さんの出席が増えたと認識して、低いレベルでの解説を目指しているが、個々の方々と、講演後の質問などによって対話をすると、多くの方々が薬剤師であり、薬剤師以外の方々でも、物売りの知識ではなくて、薬学的管理に対する知識を、積極的に得ようとしている方々である。

決して、レベル・ダウンをする必要はない。よく知られていると思われている大衆薬でも、基礎からの情報の提供に改めないと、世代交代によって、忘れ去られる恐れが出て来た。

ほんの十数年前発売された製品でも、その製品の沿革・薬効、関連する常態生理・病態生理・薬理を、発売時と同じように、説明をしなければならないようになった。

この、意味で、大企業は大企業なりに、小企業は小企業なりに、訪問による説明、リーフレットの配布、説明会など、なしうる手段で、よく知られている製品でも、改めて、沿革をはじめとする基礎情報から最新の情報までの製品情報を、提供する必要を感じる。

とりわけ、よく知られていると思い込まれ

ている家庭薬については、この対策の必要を感じる。

③上下の欲をおなじうする者は勝つ。

医薬品の製造業から、販売最前線の薬局・薬店まで、一つの目的を持って、販売活動を行う必要がある。

マスコミ宣伝をするだけで、薬局・薬店を訪問もせず、薬局・薬店に利益を与える、売らせていると表現した方がよい製薬企業の製品は、薬局・薬店では、在庫もせず推奨もせず、どうしてもと求められれば、取り寄せるか、類似商品に切り替えるかするから、最前線で宣伝効果が打ち切られる場合が多い。

家庭薬を売ってくれるのは、薬局・薬店であって、薬局・薬店に対するアピールを怠り、卸店のみにアピールして、販売活動の事足りりとしていれば、やがて、薬局・薬店の在庫から外され、忘れ去られる運命をたどるに違いない。

④虞（事前の周到な準備）を以って不虞を待つ者は勝つ

家庭薬のように良く知られ良く用いられている製品でも、世の中の移り変わりに応じて、必要が感じられれば、薬効のアピールを変え、包装を変え、販売方法を変えねばならないときがある。

新製品を発売すれば、そのときから、次期製品や次期改良品の開発が発足する。

一点集中で戦うか、多彩な製品群で戦うか

は、その企業の規模や能力によって、判断されるべきものではあるが、常により良いものを求めての研究・開発は欠かせない。

「作ったものを売るから、売れるものを作るへの転換」

が、マーケティングが誕生した背景である。

薬局・薬店は、気に入らなければ、売らなければすむが、売れないものを作られて、最も困るのは自社の営業社員である。

売れる大衆薬を作るには、原則がある。

売れる大衆薬を作り出すための要件を、わかりやすく整理したものが、かつて、日本大衆薬工業協会のパブリックボードで、私が提唱した「大衆薬三角形」である。

⑤将の能にして君の御せざる者は勝つ

大衆薬の一時的な斜陽の時代に、大衆薬部門に優秀な人材を残した企業は、大衆薬の再活性化の時代に、即座に対応出来たが、大衆薬部門の優秀な人材を、医家向き部門に配置転換した企業は、大衆薬の再活性化に立ち遅れた。

戦争で、最も大切なのは、分隊長や小隊長などの初級幹部の戦闘指揮能力である。

製薬企業を見ていても、指揮幹部から営業最前線の幹部まで、組織の各段階で有能の人材が揃っている企業は、底力を持っている。

大衆薬の一時的な斜陽化は、その意味で、大衆薬業界の人材を淘汰したように思えるし、大きな教訓を与えてくれたようにも思える。

大衆薬開発三角形



品格（有効性・安全性・品質・容器・包装・宣伝・販売対策）

価格（適切な販売価格・薬局・薬店・卸店の適正利潤）

味覚（剤形・容量・用法・用量・味・匂い・マスキング・薬らしさ・色彩）

会報に寄せて

庶民とくすり

医薬ジャーナリスト 松井 寿一



■銀座の香具師

「陣中膏はガマの油」の口上を、大道で聞かなくなつて久しいものがある。昭和30年代までは、ガマの油以外の薬も大道で売っている光景をみかけたが、いまではすっかり影をひそめてしまった。

私が「薬業時報」の駆け出しの記者の頃であったから昭和37～38年頃だったと思う。銀座の松坂屋百貨店の前で、薬草とおぼしきものを乾燥させ、それをうず高く積み上げて口上を述べている人がいた。

煎じて飲めば胃腸にいい、と言っていたように覚えている。現在ではそんな悠長なことを言ってると誰も買ってくれないであろう。今にして思えば、まだまだのどかな時代だったわけである。

この時にはもう一つ思い出がある。私は内心、こんな商売をしていたら薬事法違反で捕まるんではないか、と思いながらその場を立ち去ろうとしてフト人垣の前方をみると、なんと三共の鈴木万平社長が立っていらっしゃるではないか！。参議院議員でもあり、超多忙の身であるはずなのに、昼食時の帰り道でもあったのであろうか、じっと香具師の口上に耳を傾けていらっしゃる。

それを知つてか知らずか件の香具師は、「たくさんのお薬を売っているこの先の『三共製

薬』の社長さんも、この薬草を煎じて飲んでいる」と大声を張り上げていた。

ハッタリもいいところだが、面白おかしい口上で人をひきつけ、財布の紐を開けさせるのが商売なのだから、このくらいは当たり前だったのかも知れない。

鈴木社長はさすがに苦笑を浮かべながら、人垣を離れて行かれた。

■香具師の口上

香具師、野師と書いて「やし」と呼び、またはテキヤと言い伝えてきている。語源は明らかにされていないが、奈良朝時代にはすでに日本の歴史に登場している。

当時は農耕が主体の社会であった。農閑期になるといろんな行事が行われた。その中の一つに「市」があった。多くの人々が楽しみと生活必需品を求めて、その市に集まってくる。

いろんな物が売られている中に、山野から薬草を採集して売りにくる者たちがいた。それが香具師たちであった。声高に、どこで採れたものか（原産地証明）、何に効くのか（薬効）、どうして飲むのか（服薬指導）などを述べたてた。

これが口上である。テキヤはその職能が発生したときから、口上を言うのがつきものだったといえる。

■富山の配置売薬

時代は下って江戸時代（西暦1700年代）、富山藩の配置売薬が徐々に全国展開をし始めた頃、やはり人寄せにいろんな芸を見せた。薬を売る前に注目を惹くというか、売り手に着目してもらう必要があったからで、現代ならば宣伝、広告の手法ということになる。そして買ってくれたお客様に、ちょっとしたオマケを上げるのが普通だった。紙風船とか縫い針とか小さな錦絵などがオマケに使われた。現代でもこの伝統は引き継がれている。

富山売薬の中心「反魂丹」が全国的に知られるきっかけとなった事件は1690年に起きていた。諸国の大名が江戸城へ詰めているとき岩代の三春（福島県）の城主・秋田河内守が突然脇腹をかかえて苦しみ出した。そのとき前田正甫公が印籠から反魂丹をとりだし、服用させたところ、たちどころに治ったという一件である。こんなによく効く薬なら、わが藩にも売り広めてほしいと諸大名が言い出し、全国展開に着手することになったわけである。

■水戸黄門と「救民妙薬」

一方水戸では、黄門様で親しまれている光圀公が、医師も薬も少なくて困っている領民のために「くすりの本」をつくるよう医師・

穂積甫庵に命じていた。「救民妙薬」という本で1693年（元禄6年）に初版が刊行された。甫庵は名医の誉れが高く、「救民妙薬」の前文に次のような編纂の趣旨を書いている。

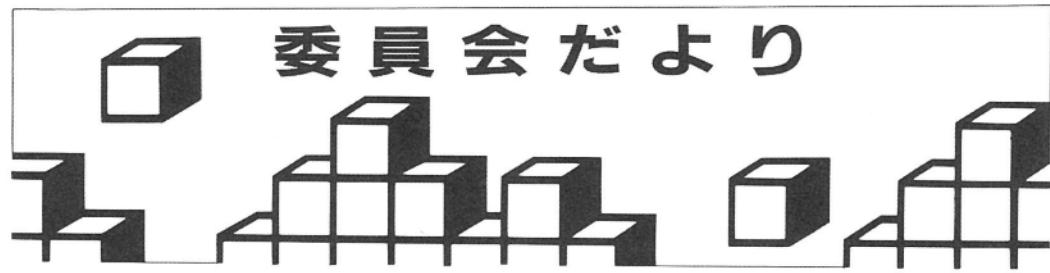
光圀公が私に命じられた。山野貧賤の地には医もなく薬もなし。庶民は病氣で臥ったら自然に治るのを待つしかない。治らない者は死ぬか廃人になってしまう。これでは可哀想である。求めやすい漢方薬の処方を集めて彼らに与え、彼らを救え。私は謹んでこれを拝命し、それぞれの病気に求めやすい薬方397方を編集し、救民妙薬と名づけて、深山野居の人々にこれを与える。済民の一助となれば幸いである。

「救民妙薬」の内容は、中風に始まり、食いあわせに終る129の項目に分けられ、それにどのような薬を、どのように用いればよいかが書いてある。当時の庶民にもわかるように、術語、本草語類には説明を書き加え、仮名もふってある。この本は比較的安く、手に入れやすかったため版を重ね、ずい分と普及したといわれる。

単に読みやすいだけではなく、内容が普遍的でもあった。本草にこだわらず、治療に役立つのであれば身近かにある物の活用もすすめている。そして健康を回復、保持し、長寿を望むならば、一にも二にも自然の理にかなうにしくはなし、と説いている。



委員会だより



薬事委員会

委員長

喜谷市郎右衛門

前回の委員会だよりでは、薬事法の改正について、厚生省当局より日薬連に対し、業界の要望をとりまとめるようご指示があり、日薬連薬制委員会では関係諸団体から要望、意見、質問等の提出を求め、これらをとりまとめ、11月末までに厚生省に提出することになった旨を述べた。そして、業界意見は予定通り11月末に提出された。

その後、当局では改正法案をとりまとめ本年2月12日の閣議に提出、閣議では予算関連法案の一つとして国会に提出することに決定された。さらにその後、本法案は衆議院、参議院の審議を経て、4月21日に成立した。

ご承知の通り、本改正法は平成5年10月1日から施行されるものと、平成6年4月1日から施行されるものとあり、当局では法律の施行に必要な政省令の改正、その他の措置について検討を進めている。

(ヒサゴ薬品株式会社 社長)

GMP委員会

委員長

山田正巳

GMPは現在、国際化及び高度技術化への対応を図るべく各種施策が検討されている。その中で本年度はWHO-GMPの改訂に伴なう医薬品GMPの改正、また、薬事規制の面

からは、医薬品製造の許可の要件にGMPが加えられようとしており、一層GMPの重要性が増している。このような状況の中で当委員会は、会員会社の要請に応えるため、日薬連GMP委員会との密接な連絡のもとに活動を進めていきたい。次に、最近のGMPの動向について報告します。

1. GMP改正について

本年10月を目途に省令の改正作業が進められている。今後ワーキンググループで検討された内容を日薬連に提示してもらい、業界の意見を充分に聞いてもらえるよう要望を出す予定である。

2. 輸入医薬品及び医療用具の品質確保に関する説明会について

平成5年4月19日付薬発第380号をもって厚生省薬務局長より「輸入医薬品及び医療用具の品質確保に関する基準」に関する通知が出された。この基準の内容についてさらに具体的にQ&A等を含めた説明会が厚生省薬務局及び日薬連の主催により7月29日大阪、8月6日東京にて開催された。

3. 第13回医薬品GMP研究会について

本年は、GMPの改正もあり、当局からの説明を主とする内容で計画されている。11月2日大阪、11月5日東京、11月11日福岡の予定で開催される。本年より福岡と富山は隔年で開催地が変更される。

(株式会社ツムラ静岡工場 品質管理部長)

流通委員会

委員長

鈴木国之

昨年のバブル崩壊により、我々家庭薬業界

におきましても非常に厳しい状態に立たされおりましたが、今年に入り景気の底入れもメドが立ち、一般経済界も立直りの気配を見せておりますので、我々の業界も新薬、直販に対して積極的に施策を立て発展に努力いたしたいと思っております。

これら難問が山積しております中で、平成5年5月20日那須において、全家協流通委員会及び家庭薬流通懇談会を開催し、大衆薬浮上につき協議いたしました。

(1)日本医薬品卸業連合会一般薬流通委員会との会合については、3月18日に開催された上記委員会との会合で卸側より物流費の一部負担とMRとMSとの役割分担につき提案がありました。

⑦物流費に関しましては、卸の物流の集約化及び物流センターの構築が進み、このことは卸の経営効率化、合理化、内部管理等において非常に利益貢献をしておりますが、一方、小売店に対しても完全な品揃えや迅速で正確な配荷という面でメリットが大であり、さらにメーカーにとりましても出荷先の減少、出荷回数の減少、在庫回転日数の短縮等総物流コストの節減に寄与しているということで、物流費の一部をメーカーにて負担をしても

らえないかということです。

これにつき協議の結果、メーカーにおいては、それぞれ取引条件等が各社によって事情が異なり、統一見解を出すことは困難ですので、縦割りで各社対応として個別に交渉を願うことにします。

④物流の面で、卸のMSとメーカーのMRとの役割りが従来は明確に区分されておらず、この点で直販の進出を許しているのではないかということでメーカーよりMSに対する要望を出すことにしており、各社にて検討を願い、回答をまとめて日本卸に回答書を出しております。

(2)東京薬業三者協議会小委員会が4月15日に開催され、東薬連より卸の現状に厳しい批判があり、検討することになりました。

(3)ITFコードについては事務改善委員会にて検討中ですが、流通委員会でもITFコードにつき説明、実施に向け協議。

(4)厚生省経済課からの要請により、一般薬の近代化を効率的に推進すると共に、平成10年の再販の見直しに適切に対応するため流通実態調査を行なうとのことで、ご協力願いたいとのこと。また、その後の再販の現状について説明があり、平成10年には取消ではなく、さらに延長をめざし節度ある行

会員会社訪問



啓芳堂製薬株式会社

東京都文京区千駄木1-22-3

沿革

昭和9年、中島三郎氏が啓芳堂を創立。頭髪用育毛剤ミクロゲンを発売。戦時下一時休業。28年、啓芳堂製薬㈱に改組。31年、眉毛・体毛育毛剤ミクロゲンパスタを発売。

社是

特に定めていないが、誠実、堅実を経営方針とし、自重、自戒をモットーに

している。

社章

薬研を図案化したもので、昭和28年、株式会社に改組した時に制定。



眉毛・体毛の育毛剤である、主力製品のミクロゲンパスタは特異な医薬品として中高年の女性や若い女性に人気がある。



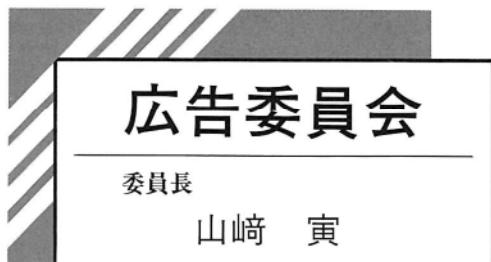
代表取締役
中島 権夫
大正9年生まれ
旧制桐生高等工業学校卒業
(現群馬大学工学部)

委員会だより

動を願いたいとのことであります。

以上が流通委員会、懇談会の内容ですが、今後の国民の健康に対する意識や医療供給形態、財政状態等を考えると、大衆薬浮上の条件は明るい見通しもありますので、業界発展に全力を傾注して行きたいと思っております。

(株式会社トクホン 専務)



バブル経済がはじけて久しく、我々医薬品業界をとり巻く環境も厳しくなっております。

景気の影響を受けやすいのが広告業界で「三K削減」などといって広告費、交際費、交通費がまず槍玉にあがるからです。

広告業界が冷えたからといって、それならばテレビのスポット料金が下がるかというと、必ずしもそうではありません。「料金は需要と供給の関係にある」といわれながら、そう広告主に有利になっているとは思われません。

「一度上がった料金は死守する」というのが媒体側の現状であるようです。その辺が企業

の広告担当者の困るところです。他の部署から「この頃は広告費が安くなっている筈だ」との声が上って苦労している広告担当者も多いと思います。

広告表現の方をみてみると、二つ以上の効能効果をもつ医薬品については二つ以上の効能効果を言わなければならなくなっています。

例えば、総合胃腸薬の場合、「飲みすぎ、食べすぎに」というような言い方をしなければなりません。テレビの場合、画面のみで二つを同等の大きさで表現してもいいし、音声のみで二つを同等の大きさで表現してもいいのです。もちろん、画面、音声両方でそれぞれ二つ以上を同等に表現するのもかまいません。

印刷媒体では二つ以上を同等の大きさで、ラジオでも二つ以上を同等の音声で表現します。この主旨は「複数の効能効果を有する一般用医薬品の広告において、特定の効能効果のみを広告することは、当該医薬品があたかも特定疾病に専用に用いられるものであるかの誤認を与える」というところから出ているのです。

去年の終りから今年にかけて、広告表現の審査ということから話題の多かったのはミニドリンク剤でした。競争が激しいのでやや行

会員会社訪問

株式会社 恵命堂

東京都中央区新川 1-27-8

沿革
昭和8年、柴昌範氏が鹿児島県屋久島に自生しているガジュツを主剤とした胃腸薬「恵命我神散」の製造許可を受け、鹿児島に老舗恵命堂を設立。17年、海軍指定工場となる。31年、(株)恵命堂を設立。40年、本社を東京都中央区に移転。平成5年、60周年を迎える。

社是

誇りと感謝を忘れず、病苦に悩む人の救済に真心を尽くす

社章
太宰府天満宮から譲り受けた梅鉢の紋に恵を図案化。

◆ ◆ ◆

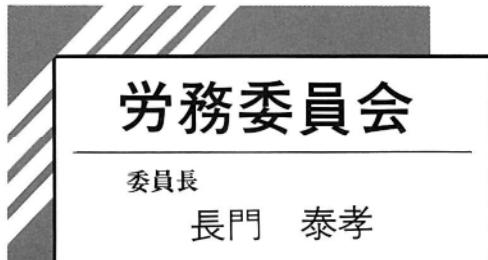
恵命我神散一筋、胃腸薬の老舗として60年の歴史と伝統に誇りを持ち、良薬づくりに弛まぬ努力を傾注している。

代表取締役社長
柴 賢悟
昭和24年生まれ
立正大学
経済学部卒業

きすぎの表現があったようですが、鎮静化しました。

ともすると、各社の広告基準の運用判断にズレが出てきますが、やはりルールにのっとり節度のある解釈が必要と思われます。

(株式会社金冠堂 社長)



景気底ばい状態に加え、昨今の円高の進行により、企業を取り巻く情勢は一段と厳しさを増しており、労働情勢に関しても雇用問題、賃金の取扱いに大いに苦慮しているところである。

今年の賃金交渉は、企業業績の悪化に伴う支払能力低下を背景に、円高不況期の昭和62年以来6年ぶりに4%を下回る結果となり、長引く不況のなかで、厳しい対応に迫られている。

このような状況下において、労務委員会では、秋山錠剤、河合製薬、堀内伊太郎商店、わかもと製薬、イチジク製薬、救心製薬、養

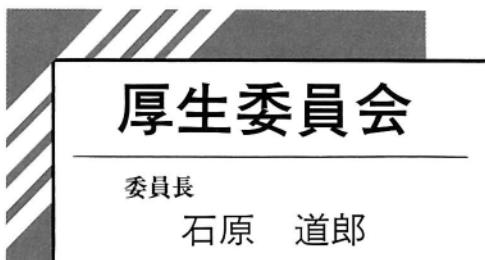
命酒製造、太田胃散、トクホン、龍角散、原沢製薬、ツムラの12社が定例会議を開催して労使関係の諸問題について検討してきた。

3月の定例会議は、昇給交渉に関して各社の状況を話し合い、要求、回答、時間短縮への取り組み、付帯要求等の情報を交換した。

各社とも、厳しい状況下での昇給交渉の対応に苦慮しており、特に今年は、世間相場の動向に最も強い関心が集まっている。次回の定例会議では、昇給交渉の総括、賞与交渉の経過について情報交換を行う予定である。

各社には、それぞれの考え方や事情があるが、労働情勢の変化に強い関心を抱いており、その変化への対応という各社共通のテーマについて、お互いに情報や意見を交換して、問題解決の参考となるよう期待するところである。

(株式会社ツムラ 取締役人事部長)



去る6月17日、厚生委員会の企画による懇

会員会社訪問
三恵製薬株式会社
東京都港区南麻布2-9-16

沿革
大正12年、河原甚一氏が東京・浜松町で髪洗粉の製造販売を始める。昭和23年東製薬(株)に改組。27年、三恵製薬(株)に社名変更。42年、漢方製剤バゼットピンク発売。

社是
特に定めていないが「競争相手は世の中の流れである、世の中をしっかりと眺めよう」を経営方針としている。

社章
無限を表しどんどん発展していく様子を象徴している。

◆ ◆

一般用医薬品に加え、化粧品の製造販売にも進出、頭髪用化粧品テラリスは理美容業界の他、病院でも化学療法による抜け毛対策として注目されている。

代表取締役社長
松原 靖
昭和7年生まれ
高千穂商科大学
商学部卒業

委員会だより

親会旅行を川治温泉において行いました。

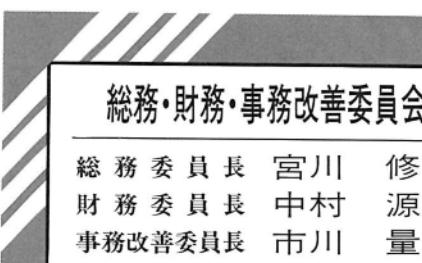
当日は26名の参加をいただき、東武浅草駅より「特急きぬ号」にて出発し、午後2時、柏屋ホテルに到着、早速、理事会を開きました。理事会終了後、懇親会を開催し、ゆっくり歓談のひとときを過ごしました。

翌日は有志15名による観光バスツアーを行い、新しくできた「東武鬼怒川ワールドスクエア」を見学、古代エジプトのピラミッドや東京駅など、世界各国の歴史的に有名な建築物を観て楽しんだ後、中禅寺湖畔・レイクサイドホテルにて昼食をとりました。

午後から日光東照宮を参拝し、下今市駅より東武線にて帰途につきました。

これからも懇親旅行会を毎年続けていきたいと思いますので、ご意見、ご要望がございましたら厚生委員会へお寄せください。

(石原薬品工業株式会社 社長)



総務委員会、財務委員会及び事務改善委員

会については、相互に連絡を密にし、組合の健全な運営に資するよう努力している。

【総務委員会】

総務委員会は、去る4月8日に第46回通常総会開催準備のため、下記の通り会議を開催した。

開催日時：平成5年4月8日(木)

午後2時～5時

開催場所：組合会議室

協議事項：1. 平成4年度事業報告

2. 平成4年度決算報告

3. 平成5年度事業計画案

4. 平成5年度取支予算案

5. その他

当日は、堀泰助理事長のご出席を賜り、当組合事業の一層の充実と合理化を目指として、詳細にわたり検討を行い、上記協議事項についてそれぞれ最終案を作成した。

さらに今後の理事会及び総会開催の日程について協議を行った。

【財務委員会】

財務委員会は、当組合の所有する会館の各賃貸料及び営繕関連事項について見直しを検討するなど必要に応じて協議し、当組合の健

会員会社訪問

三共ゾーキ株式会社
東京都中央区日本橋本町4-1-1

沿革
明治8年、友田嘉兵衛氏が横浜で医薬品輸入販売業友田商店を創業。大正5年、友田合資会社と改称、本社を東京・日本橋に移す。昭和7年、友田製薬㈱と改称。胃腸薬トモサンの製造を開始。38年、三共㈱と業務提携、47年、三共ゾーキ㈱と改める

理念

健康な社会を構成するための一助として働きたい

社章
三共(ゾー)のマークにアルファベットでZOKIと表現

◆ ◆

東の友田、西の武田と称された老舗として知られる。近年、人体薬に力を入れ、新薬の開発を目指している。

**代表取締役社長
立石 隆造
昭和5年生まれ
京都大学医学部
薬学科卒業**

全運営に資するよう努めている。

【事務改善委員会】

事務改善委員会は、去る3月3日、下記により委員会を開催して、今後業界における事務関連事項の一層の合理化改善の促進を図っている。

開催日時：平成5年3月3日(水)

正午～4時

開催場所：組合会議室

協議事項：1. 商品コード業界標準・物流バーコード業界標準の策定について

2. 業界標準のQ&Aについて

当日は日本医薬品卸業連合会から3名、製薬協流通適正化委員会から1名の方々が出席され、昨年11月両者で合意された商品コード業界標準と物流バーコード業界標準及びこのQ&Aについて詳細な説明があり、活発な質疑応答が行われた。

(株式会社金冠堂 市川専務)



広報委員会

委員長

友田 真二

発足して早や3年になった。一部委員の入れ替わりがあったもののヴェテランの方々の協力に、さらに事務局に唐崎さん（40余のご厚誼をいただいている）が入られ、お手伝いくださることになり、力強いこと限りがない。野原専務理事とは大学同期同窓の奇縁でもあり、まさに阿吽の呼吸ともいえる。

理事長の烈々たる気迫を業界全体に、また会員各位に紙面を通じて伝えられれば本望でもある。ただ、寄稿をお願いしても尻り込みをされる業界人も未だにおられ、残念でならない。みんなで育てる皆様の「かていやく」としてお読みいただき、将来にも資料として残るようなものにしていければと、今後とも編集委員一同心を一つにして頑張りますので、ご指導のほどを心よりお願い申し上げます。

(三共ゾーク株式会社 顧問)

会員会社訪問



三宝製薬株式会社

東京都新宿区下落合2-3-18

沿革

昭和7年、渡邊久吉氏が新宿区百人町にトフメル本舗を創立。14年、三宝製薬㈱に改組。18年、現在地に移転。63年、本社新ビルディング完成。

経営理念

真理に副って生きる

社章

太陽をイメージしてデザインしたもの

で、昭和42年、三宝はぐきみがきの販売を機に渡邊久吉氏が考案。

創業以来、信義を重んじたチェーン組織を貫いている。トフメル、エフレチン、三宝はぐきみがきなどユニークな製品開発に定評がある。家庭薬メーカーとしてのニーズに応えるべく新たな製品開発に注力している。



代表取締役社長
渡邊 吉康
昭和10年生まれ
明治薬科大学卒業

塩澤副理事長の叙勲を祝して

理事長 堀 泰助

東京都家庭薬工業協同組合 塩澤 護副理事長には、春の叙勲におきまして、永年にわたり国民の保健衛生の向上に寄与されたご功績により、栄えある勲四等旭日小綬賞をお受けになられました。誠におめでたく心からお祝いを申し上げます。

このたびのご受賞は、ご本人の栄誉はもとより家庭薬業界にとりましても大変名誉なことであり、この上ない喜びであります。

塩澤さんの豊かな識見と温厚で誠実なお人柄は、斯界において敬意と信頼をよせられ、数多くの要職に就かれていることはご承知の通りであります。

申すまでもなく、塩澤さんは東家協の副理事長であるばかりでなく、日薬連の評議員をはじめ全家協、日大協、日漢協および長野県製薬協の各理事、また日本洋酒酒造組合の理事など、各方面のリーダーとしてご活躍され、国民の保健衛生の向上と業界の健全な発展に尽くされたご功績は誠に大であります。

塩澤さんが経営される養命酒は、ご創業が慶長七年（1602年）と申しますから、三百九十余年の歴史を有しております。

慶長のはじめ、雪の降る寒い夜、行き倒れになった旅の老人が、大庄屋塩澤家に運びこまれ、当主宗閑翁の手厚い介護によって、尊い命を救われたのであります。この老人が本草学者伊藤怒雲で、高恩に報いるために、薬酒製造の秘法を伝授し創製されたのが「養命酒」と承っております。

「世の病弱者を救い、人びとの健康と長寿に尽くしたい」という崇高な経営理念は、「養命酒」の起源から醸成されたものと信じてお

ります。

塩澤さんは、長い歴史と伝統に誇りを持ち、健康生活に奉仕するという創業の精神を受け継がれ、常に「良品廉価」をモットーに堅実な経営をなさってこられました。

滋養強壮保健薬「養命酒」は著名で、国内はもとより海外十数ヶ国に輸出され、名実共に薬酒のトップメーカーとしての地位を築かれて今日に至っております。

塩澤さんの近代的経営手腕と先見性は、駒ヶ根工場の建設によっても窺い知ることができます。

現在、環境問題が取り沙汰されておりますが、早くから環境保全に関心をよせられ昭和47年、養命酒駒ヶ根工場が中央アルプス駒ヶ岳山麓に、自然の環境を活かした公園工場としてのレイアウトで建設されたのであります。

自然環境に調和した工場、近代的な製造設備に加え先端をゆく製造技術と厳しい品質管理は、医薬品工場の今後のあり方を示唆するものであります。

また、工場建設時に発掘された古代遺跡を工場敷地内に復元保存されるなど、文化、教育の面でも大きく寄与されております。

塩澤さんのご業績の一端をご披露申し上げましたが、これまでご事業を通じて、国家社会に貢献された数々のご功績を国家が高く評価され、このたびの顕彰となったものと信じます。

この上は健康にご留意なされご活躍されると共にご事業のますますのご繁栄と薬業界の発展のために、一層のご尽力をお願い申し上げて、お祝いの言葉といたします。



▲叙勲の栄に輝く
塩澤副理事長



▲救心製薬 創業80周年記念祝賀パーティー盛大に開催



▲ツムラ 創業100周年記念レセプションを盛大に祝う

第46回通常総会から



▲5月25日、日本橋倶楽部で開催された第46回通常総会



▲懇親会でご挨拶
される堀理事長



▲東家協のますますの発展を祈って乾杯

■専務理事の異動

本年3月31日、当組合専務理事三浦重博氏が辞任され、後任として前全家協専務理事野原和夫氏が就任しました。

退任のご挨拶

三浦 重博

三年前、専務理事に就任させていただきまして以来、理事長はじめ、組合員の皆様の温情により、大過なくその任を果たせましたことを深く感謝申し上げます。

心に残る思い出は、就任した年の6月、熱海・大觀荘の理事会で理事長から「会報は東家協の歴史であると同時に組合と組合員を結ぶ絆である」との発案により、会報を復刊することになりました。そこで広報委員長の友田さんを中心に委員の皆様が大変ご苦労され、平成2年12月に復刊第1号（通巻48号）を発刊にこぎつけました。

その年の秋、組合で初めて行われた養命酒製造駒ヶ根工場でのGMP研修会も忘れえぬ思い出です。

その他、悲しいこと、嬉しいこともあります。前副理事長宇津廣様の訃報…、青山斎

就任のご挨拶

野原 和夫

三浦専務理事の突然の辞任に伴い、本年4月1日に当組合専務理事に就任した野原和夫でございます。

私は当組合に平成3年1月1日から事務局長としてお世話になりました。同年3月、全家協を退職された園部明氏の後を継ぎ全家協の専務理事として、爾来、その運営に当たっておりましたところ、図らずも今回、三浦さんが古巣のツムラにお戻りになることになり、急遽その後任を仰せつかった次第であります。

全家協の事務所は組合のなかにありますので、三浦さんとは机を並べて仕事をしておりました。そこで組合の仕事もお手伝いさせてもらったり、組合の行事等にも参加させていただいたり、日頃から組合業務にも関係しておりましたが、果たして三浦さんのように立派にやれるかと大いに考えましたが、理事長は

原和夫氏が就任しました。

また全家協専務理事の後任には唐崎實氏が就任しました。



場での理事長及び船田代議士の弔詞は今でも耳に残っています。

嬉しいことでは何といっても堀理事長と塩澤副理事長のご両者が叙勲の栄に浴されたことです。

復刊第1号のご挨拶で書いた抱負を果たすことができず、途中退任したことをお詫び申し上げます。これまでのご指導ご芳情に心から御礼申し上げますとともに組合員の皆様の一層のご発展を祈念し退任のご挨拶といたします。

今後は㈱ツムラの社員として、また東家協の薬事委員として奉仕してまいるつもりでおります。よろしくご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

（㈱ツムラ 薬事部長）



じめ理事並びに組合員の皆様のご要請に感謝し、お引き受けさせていただくことになりました。

全家協の専務理事には、幸いにも厚生省薬務局時代から長いお付き合いがあり、家庭薬業界にお馴染みの深い唐崎さんが、ちょうど会社をおやめになるところだったので、間を置かずにお迎えすることができ、安堵いたしました。

長いお付き合いと言えば広報委員会の友田委員長が早大政経の同級生であったとは全く奇遇でした。これからは微力ながら一生懸命努力してまいる所存でありますので、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（東京都家庭薬工業協同組合 専務理事）

就任のご挨拶

唐崎 實

本年4月に全国家庭薬協議会の専務理事に就任しました唐崎でございます。

私と家庭薬組合との関係は古く、昭和44年の日薬連薬制委員会発足時から委員として、また昭和46年からは家庭薬代表の副委員長として今日までお手伝いしてまいりました。

当時、組合の薬事委員長は龍角散の現在の社長である藤井康男様で、日薬連の薬制委員長は現在の薬事委員長の喜谷市郎右衛門様でした。

その後、昭和50年に喜谷様はヒサゴ薬品の社長に戻られ、組合の薬事委員長に、また、日薬連の後任の委員長にはアラクスの現会長である荒川長太郎様がそれぞれ就任されました。特に喜谷様は私の厚生省時代の上司でもあり、家庭薬業界の重鎮である荒川様とともに、同じ家庭薬業界ということで、親しくご

一緒に委員会活動をさせていただきました。

このように20数年間にわたり、薬制問題に携わってまいりましたが、以前の都庁、厚生省の行政官としての経験をも併せて、今後、家庭薬業界の皆様方のために誠心誠意尽力する覚悟でおります。

幸い今回、組合の専務理事に異動されました野原様も同じ厚生省薬務局出身者ですので、二人で協力しあって業務を推進してまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

薬事法改正の施行が目前に迫っており、承認許可審査制度も大きく変わろうとしておりますが、薬務行政問題をはじめ、お困りのことがありましたら、わずかなことでも何なりとお気軽にご相談ください。お待ちしております。

(全国家庭薬協議会 専務理事)

川治温泉の旅から



▲和やかに開かれた懇親会
(6月17日 柏屋ホテルで)

編集後記

新年号が2月に発行となり今回こそ7月にと目標を立てたが、対談者のご都合もあって対談の設営がずれこみ、また、大幅に発刊が遅れて申し訳ございませんでした。

表紙には家庭薬組合をリードする理事、監事の方々の似顔絵ということで中村源三理事から力作が寄せられ、「かていやく」をぐっと身近なものにできたと思います。

また京極三朗先生の貴重なご提言は幹部社

員の方々と熟読玩味され、是非ともご活用くださいと存じます。

新薬務部長のご挨拶と理事長のご決意、戦中戦後の混乱時の業界事情の対談、松井さんの庶民とくすり、各委員会活動報告、塩澤副理事長のご叙勲、組合の行事記録、事務局幹部のご挨拶等、ご参考にご覧ください。

(三共ゾーキ・友田)

事務局だより

- 1月6日 正午より薬業四団体共催の新年賀詞交歓会が赤坂プリンスホテル・クリスマスパレスにおいて行われた。
- 1月8日 午後3時より東西家庭薬メーカー、卸合同新年互礼会が大阪全日空ホテル・シェラトンにおいて行われた。
- 1月29日 板橋区「はぎわら」において厚生委員会野球部会を開催し、第51回家庭薬軟式野球大会の打合せを行った。参加チームは22チームが予定され、試合日程は明治神宮球場側の都合により例年は11月中に開催するところ、今年は10月24日～12月12日の期間中の日曜日に行うことになった。
- 2月10日 午後6時より救心製薬創業80周年記念祝賀会が京王プラザホテル・エミネンスホールにおいて盛大に開催され、薬業関係者多数が出席した。
- 4月9日 ツムラ創業100周年記念レセプションがホテルニューオータニ鶴の間において関係者多数出席のもとに盛大に挙行された。
- 5月20日 那須温泉の「山楽」において全家協流通委員会並びに家庭薬流通懇談会が開催され、29名が参加した。
- 5月21日 春の叙勲で勲四等旭日小綬章を受賞された養命酒製造㈱社長塩澤護氏には、この日、厚生大臣より伝達並びに皇居における拝謁の栄に浴された。心よりお祝い申し上げます。
- 5月25日 日本橋俱楽部において、第46回通常総会を開催した。堀理事長が挨拶を述べられた後、議案の審議に入り、平成4年度の事業報告、決算関係並びに平成5年度の事業計画、収支予算その他の議題を承認可決した。

総会後、引き続き懇親会を行い盛会裡に終了した。

- 6月17日 川治温泉の柏屋ホテルにおいて組合懇親会が組合員多数出席のもと開催された。
翌18日はバスツアーを行い、日光、鬼怒川周辺を見学した。
- 6月21日 皇太子殿下ご結婚祝賀記念式典が東京都庁主催により、両殿下ご臨席のもと東京体育館で挙行された。当組合の代表として理事長、副理事長、専務理事が招待を受け、参列の栄に浴した。

◆組合員の異動

平成4年度における組合員の異動は次の通りであり、期末現在数は68社である。

・入会	アース製薬株式会社	4年5月8日
・脱会	アジア製薬株式会社	5年3月31日
	アサヒビール漢方製薬株式会社	5年3月31日
	株式会社精案社	5年3月31日

◆訃報

太田美恵子様

株式会社太田胃散社長太田昭様ご令室美恵子様には、かねて病気養療中のところ7月4日ご逝去なされ、7月6日文京区護国寺桂昌殿において葬儀が執り行われた。

大泉和也様

株式会社大和生物研究所社長大泉和也様には7月20日心不全のためご逝去なされ、7月22日川崎市一乗会館において葬儀が執り行われた。

謹んでお悔やみ申し上げます。

(専務理事 野原和夫)

かていやく

通巻53号 1993年8月30日

編集人：かていやく広報委員会

発行所：東京都家庭薬工業協同組合

〒104東京都中央区銀座8-18-16

電話 03-3543-1786 FAX03-3546-2792